

2025年度春学期 日本語教育センター ラーニング・アシスタント募集について（お知らせ）

L.A.とは、関西学院大学で提供される科目を対象として、授業担当者の授業運営を補佐したり、履修学生の指導や相談を通して教育および学習の支援を行う学部学生スタッフの総称です。なお、L.A.には下記のとおり、業務報酬を支払います。しかし、単なるアルバイト業務ではなく、関西学院大学における教育活動の一環として位置づけています。

日本語教育センター開講科目のL.A.については、以下の役割があります。

- ① 主体的に授業運営に関わり、授業担当者とともに授業をつくっていく役割
- ② 同世代の仲間として留学生の日本語学習をサポートする役割およびグループメンバーとして、国籍・文化を超えて様々な意見を受容し、協力しながら考えを深める作業を行う役割

上記について、十分に理解した上で、定められた期間内に申込手続を行ってください。

■L.A. 募集要項

募集科目 募集人数	別紙募集科目一覧参照 (注) L.A.に採用された学生は当該学期に当該科目を履修することはできない
任 期	2025年度 春学期
申込資格	・本学の学部に在籍中の正規学生 (注) 大学院生、募集学期に休学・退学する（予定者含む）等の学生は申込ができない
業務内容	L.A.は授業担当者の指示を受け、次の業務に従事する。 1) 学生の学習活動への助言対応補助 2) 学生の学習上の質問・相談対応補助 3) 学生の学習進捗状況等に関する授業担当者への報告 4) 授業運営の補助 5) その他授業担当者が必要と認めた教育活動上の補助 ※業務内容詳細：次ページで確認して下さい。
報 酬	I種：1時間あたり 1,270円
申込方法	「ラーニング・アシスタント申込書」を提出する。 ・提出方法：下記 URL から web フォームにて提出 ・提出 URL : https://forms.office.com/r/dsNyDsrrJX
申込要件	事前に日本語教育センターの紹介動画（約5分間）を視聴し、センターの活動や開講科目への理解を深めてから申込をしてください。 URL: https://youtu.be/x5lxsC0uMIs
申込期間	2025年3月3日（月）～3月10日（月）16:50まで
選 考	申込書類をもとに日本語教育センターで選考を行います。 選考結果は3月26日（水）にkwicにて通知します。 なお、今回はI種採用となるため選考通過者を対象に二次選考（面接）を行います。 面接時間等の詳細については選考通過者に別途通知します。

◆重要◆ 4月7日（月）12:30～14:30にLA採用者を対象とした共通研修を実施します。採用決定者は必ず参加してください。
(過去に同共通研修に参加された方は、今回再度参加する必要はありません。)

2025年度春学期 募集科目一覧

科目名	担当教員	曜日・時限	募集人数	主な業務内容	授業内容	備考
ビジネス日本語B (開講:西宮上ヶ原キャンパス)	山田 真知子	火2	3名	留学生と共に一受講者として授業に参加し、ディスカッションを行う。グループワーク時には、必要に応じて日本語サポートを行う。	様々な国籍・文化背景・価値観を持つ人々がともに働く環境において、仕事上で生じる問題の事例(ケース)についてクラスメイトと討論・分析・内省を行い、課題を解決するための協働的なビジネスコミュニケーションについて学ぶ。	授業を進める上で、留学生と同じ課題を必ず行うこと。ディスカッションでは積極的に意見をのべ、主体的に行動すること。
ビジネス日本語C (開講:西宮上ヶ原キャンパス)	山田 真知子	金3	3名	授業には一受講者として参加し、自己分析・企業分析に関するディスカッションやグループ活動に加わる。必要があれば適宜留学生の文章や発話の修正などの日本語サポートを行う。	日本での就職活動を念頭に、履歴書やエントリーシートで求められる自己PR文や志望動機文などを完成させることを目標としている。具体的には自己分析や企業分析を行い、それらの内容について深めていく。	この授業では自己分析・企業分析などに関する事前課題を出すことがあるが、留学生と同じ課題を必ず行うこと。(講義では事前課題を前提として進める場合が多い) ※就職活動予定者、就職内定者が望ましい。
日本語学習科目 (アカデミック日本語 (レベル8))	佐野 真弓	木2	5名	留学生とともに、ディスカッション、口頭発表などの活動に参加する。また、大学とともに学ぶ仲間として、大学生活に関する意見交換なども行う。	ディスカッションや発表、また、それらの準備を通して、アカデミックな場で求められる総合的な日本語力を身につけるとともに、日本語で学んでいくことへの自信と安心感を得る。	この授業では、LAはクラスコミュニティの一員として、留学生と対等な立場で学び合うことが求められる。
多文化共修科目 (サスティナブルな社会の構築)	山田 真知子	火3	3名	授業には一受講者として、ディスカッションやグループ活動等に参加する。活動のための課題や準備も同様におこなう。	本授業の目的は、SDGs (Sustainable Development Goals) の17の目標169のターゲットから、世界の諸課題を自分の問題意識に引き寄せて考えていくことである。 まず「スマートフォン」を取り上げ、原材料の調達から消費者の手に届くまでの流れにある様々な問題について学ぶ。次に、個人の関心に沿った社会的テーマについて調べて発表をおこなう。	採用条件は過去に多文化共修科目(サスティナブルな社会の構築)を受講した者に限る。